

扱となる駅

—水郷駅再複合化計画—
(The station necessary for living)



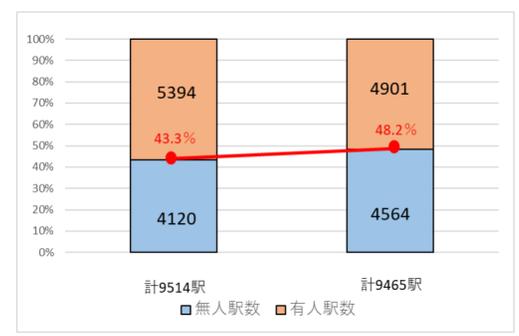
複合化により、寂れた無人駅が地域に必要な存在として生まれ変わる。
“いつも”の時も“もしも”の時も人々の生活の拠点として駅は在り続ける。

01 社会背景 —無人駅の増加と複合駅—

改札・出札業務や切符の販売などを行う駅員がいない駅、つまり無人駅が増加している。鉄道利用者の減少による人員・経費削減に起因しており、無人駅の割合は2019年に48%まで達した。無人駅化では利便性の低下、駅利用者のマナーの低下などが問題として挙げられる。

無人駅が増え続ける中、複合化により無人駅が孕む問題を解決し、駅の価値を向上させようという動きが地方を中心に見られる。最近では、JR東日本と日本郵便が地域活性化に関する協定を締結。駅舎に郵便局を併設し、郵便局員が駅業務を行う試みがなされている。

卒業研究では、駅を生活の拠点、或いは観光の拠点とし、地域にとって必要不可欠な存在にすることが、複合化成功の鍵になると考えられると結論づけた。



無人駅率の推移
(駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に関する障害当事者団体・鉄道事業者・国土交通省の意見交換会(第1回)配布資料より作成)

02 敷地対象地 —千葉県香取市—

千葉県香取市は水郷で知られる観光都市であると同時に農業都市である。その香取市東部に位置する水郷駅を対象地とする。周辺には、小学校、駐在所、郵便局があり北東に1km進むと利根川がある。

この駅には以前、小見川ふれあいセンターという公共施設が併設され、喫茶・図書・展示コーナーなどが設けられていたが、2020年に利用客減少と老朽化により廃止された。



周辺図 (地理院地図Vectorより作成)



近傍図 (地理院地図Vectorより作成)



急傾斜地の崩壊特別警戒区域（濃緑）と崩壊警戒区域（淡緑）（*より作成）



外水（河川からの越水）氾濫による浸水予想区域（*より作成）



大倉小と統合先の小学校との位置関係（*より作成）



外水（河川からの越水）氾濫による浸水予想区域（*より作成）

一番近い避難場所（小見川北小）へは、浸水区域を横断して行く必要がある。

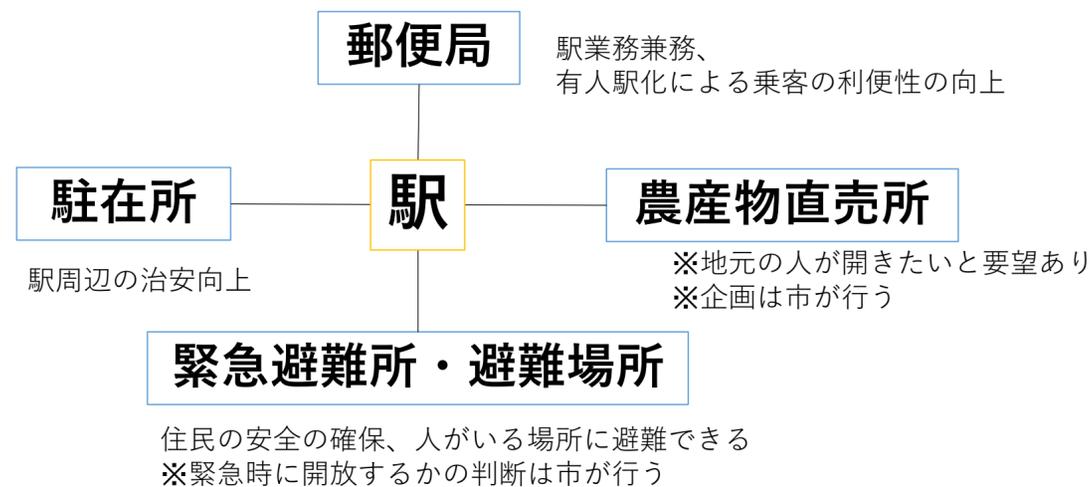
- このエリアの避難所として近くに大倉小学校があるが外水氾濫による避難には対応していない。
- 2022年3月をもって廃校し、一駅先の津宮小と統合へ。周辺住民は離れた他の避難場所に避難せざるを得なくなる可能性がある。

- 離れた他の避難所に避難せざるを得ない
- 隣駅まで小学生が鉄道で通学する

* = 国土地理院地図Vector、香取市ハザードマップ

～生活の拠（よりどころ）となる駅～

駅舎には、郵便局、駐在所、農産物直売所を主として併設し、緊急時には避難所かつ緊急時避難場所となるようにする。

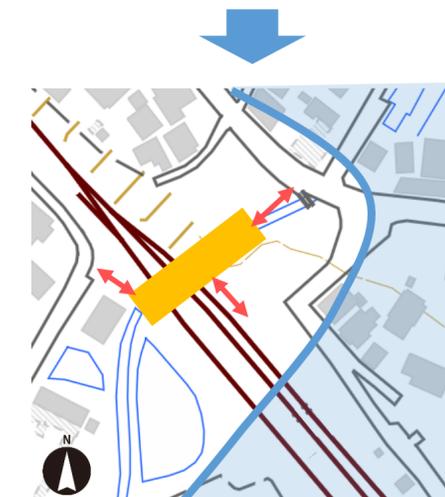


ロータリー新設と、浸水区域回避のため、駅の位置を約40m北に移し、ホームと直行して駅前道路に接続する形。駅舎への入り口を3か所設け、各方面から迅速に駅に避難できる。

作品名	拠となる駅 —水郷駅再複合化計画—	作品番号	2/5
校名	千葉大学		
氏名	岩澤和樹		



現在



本提案

■ : 駅施設 ⇄ : 出入口
 ■ : 外水浸水ライン（線右側が浸水区域）

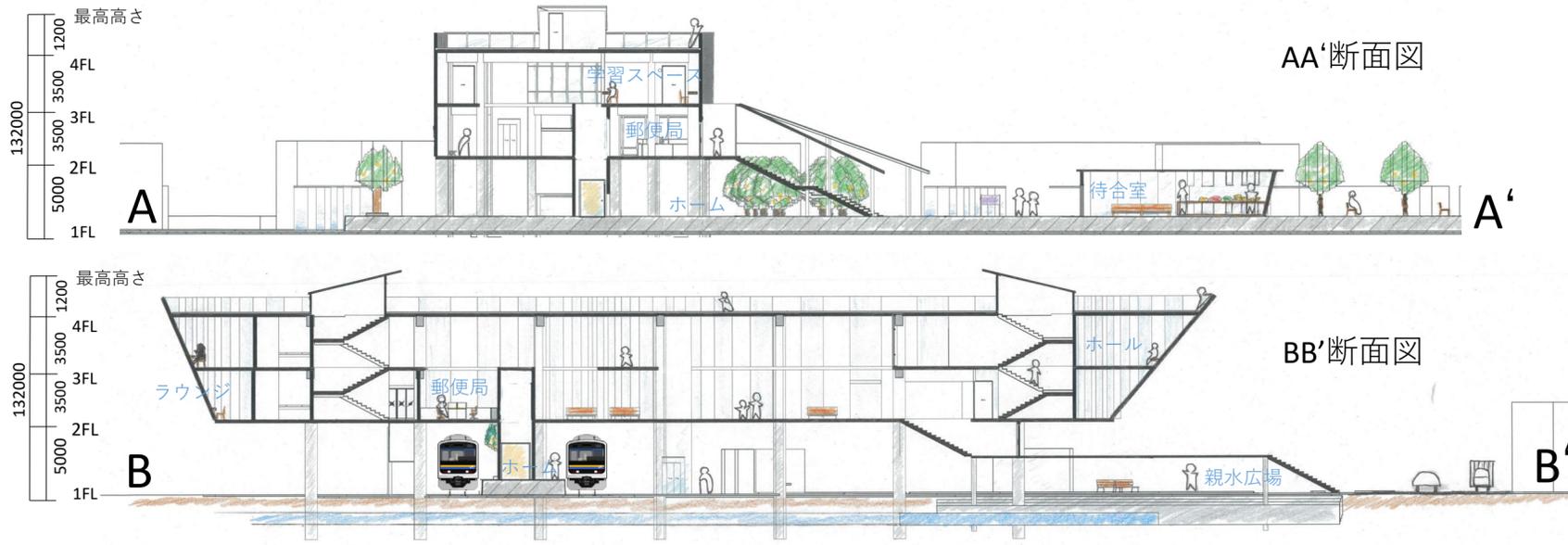
斜め壁を採用して利根川で有名なフナ釣船をモチーフとした。細切れの壁で揺らぐ水面を、ルーバーで船がかき分ける波をそれぞれデザイン。グラデーションで水深で違う水の色味を再現した。



角度によって波打つように錯視させる

06 断面図 (S=1:200)

作品名	抛となる駅 —水郷駅再複合化計画—	作品番号	3/5
校名	千葉大学		
氏名	岩澤和樹		



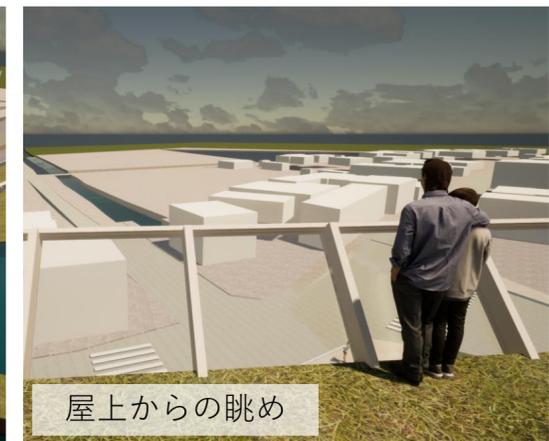
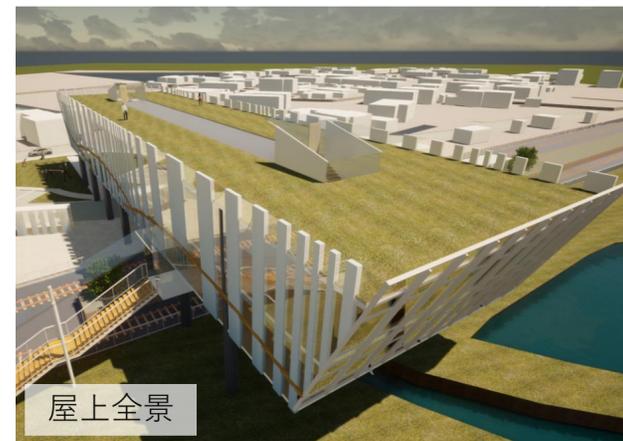
07 平面図 (S=1:250)

① 屋上緑地

屋上は緑化し、緊急時避難場所となる。通常は展望デッキであり利根川の雄大な流れを望む。

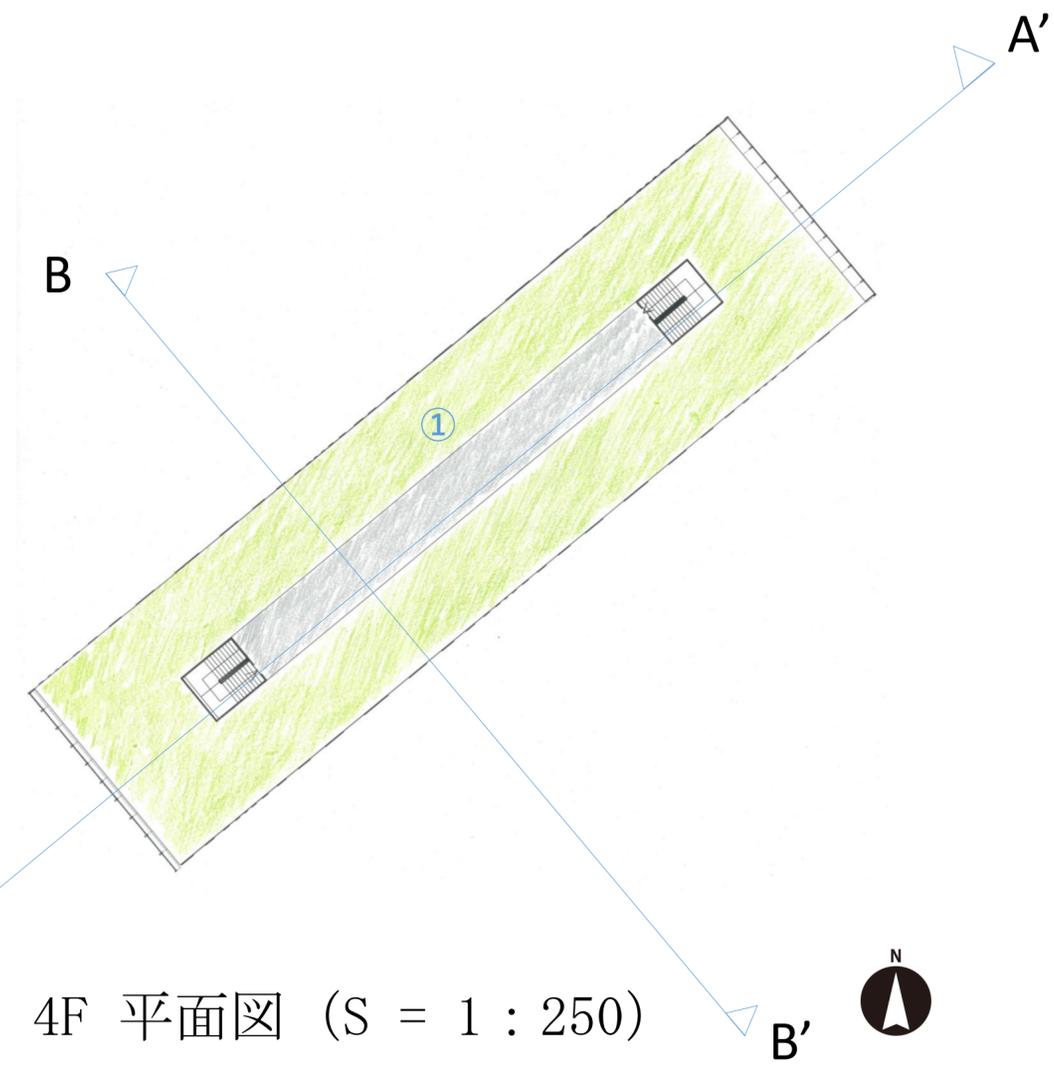
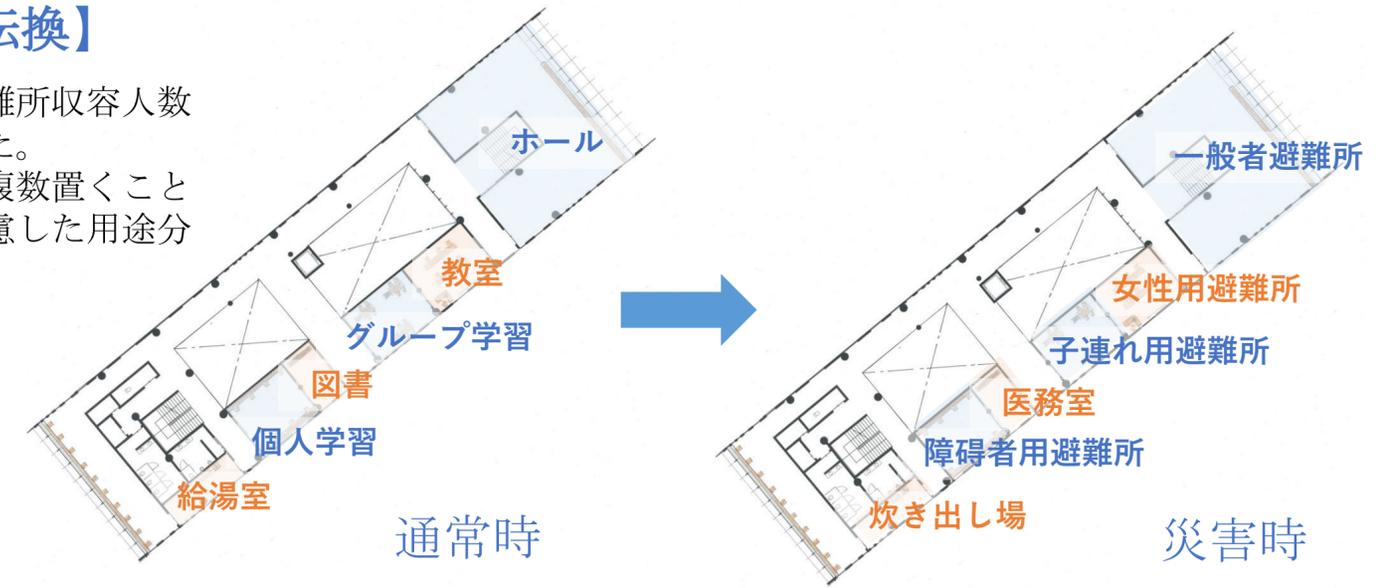
② ラウンジ

景色を見ながら食事や談笑が出来る。



【3F避難所への転換】

廃校予定の大倉小の避難所収容人数と同等の広さを持たせた。大部屋1つと小部屋を複数置くことで、プライバシーに配慮した用途分けが柔軟にできる。



作品名	抛となる駅 —水郷駅再複合化計画—	作品番号	4/5
校名	千葉大学		
氏名	岩澤和樹		

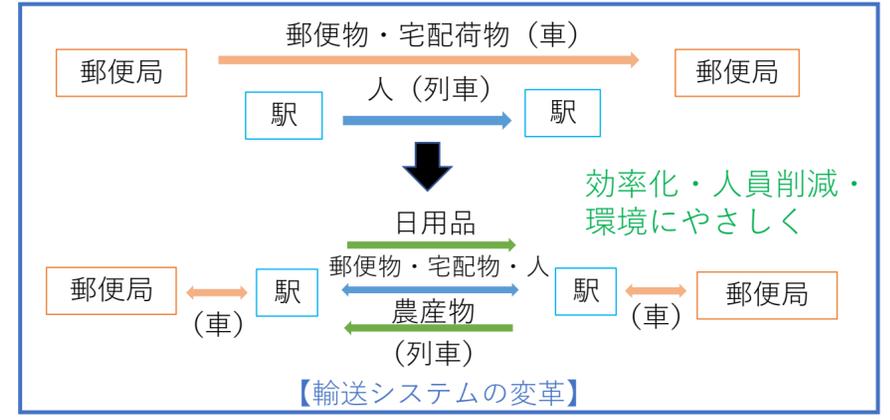
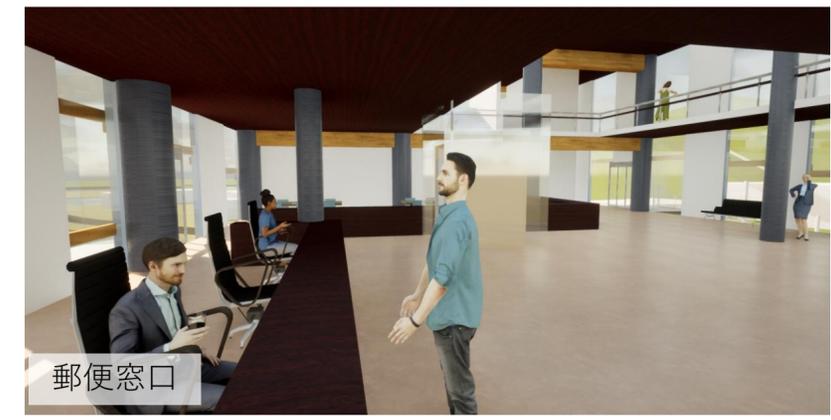
③ 公民館 ホール、教室を設け、文化系から体育系の活動まで幅広く行える。



④ 学習スペース グループ学習・個人学習・図書ルームを設け、その日の気分に合わせて選択が出来る。



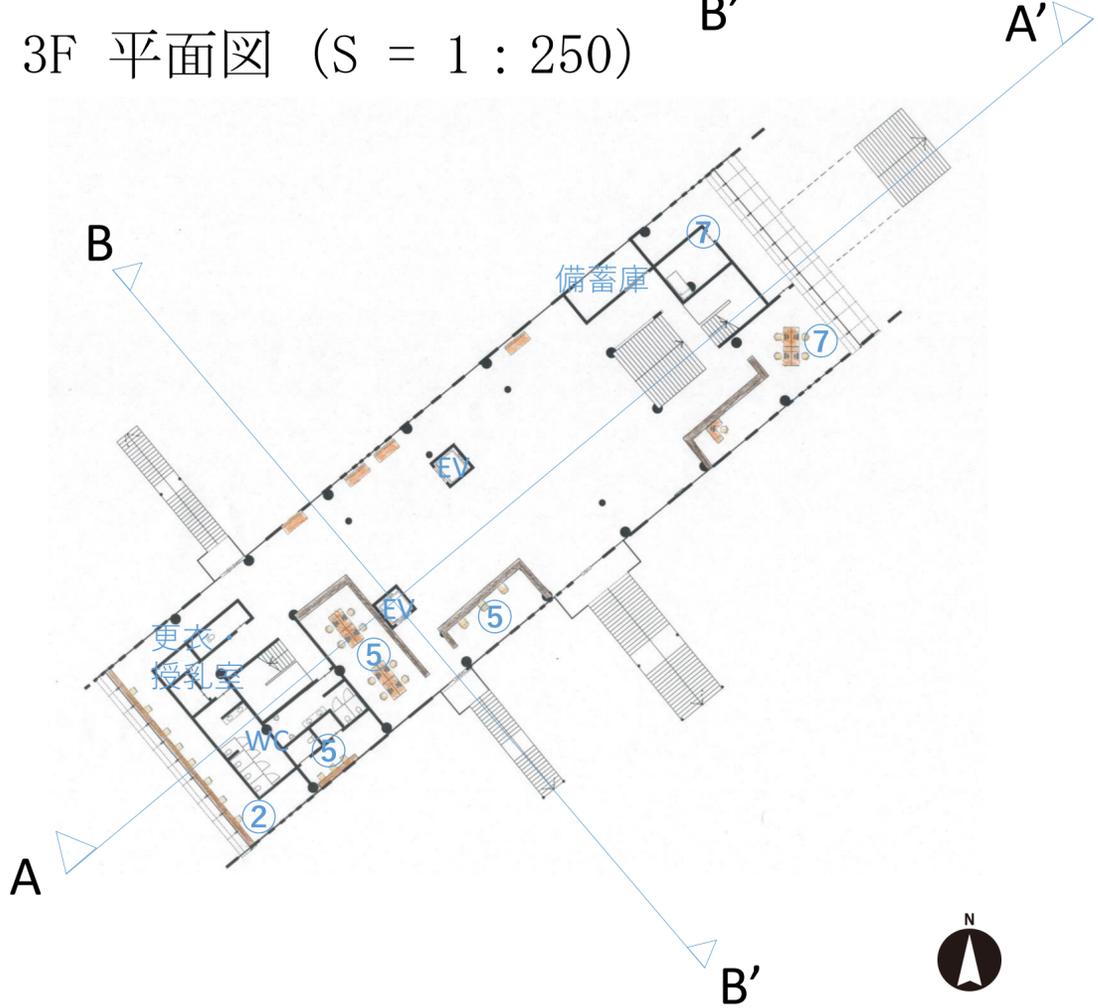
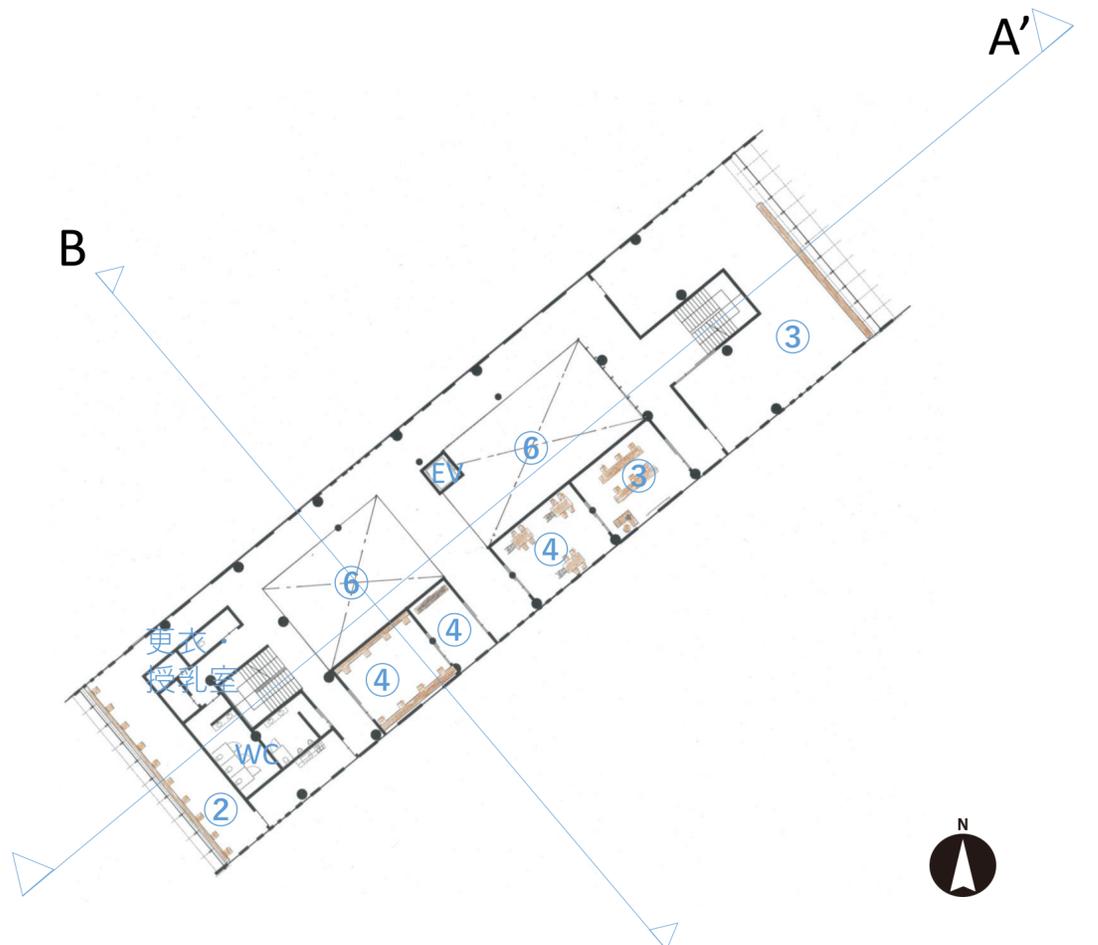
⑤ 郵便局 日本郵便とJR東日本の協定に基づき、郵便局が駅窓口・改札業務を行うことで利便性が高まる。また鉄道の貨客混載を利用した新たな輸送システムのハブとなる上、日用品等を駅で販売する。

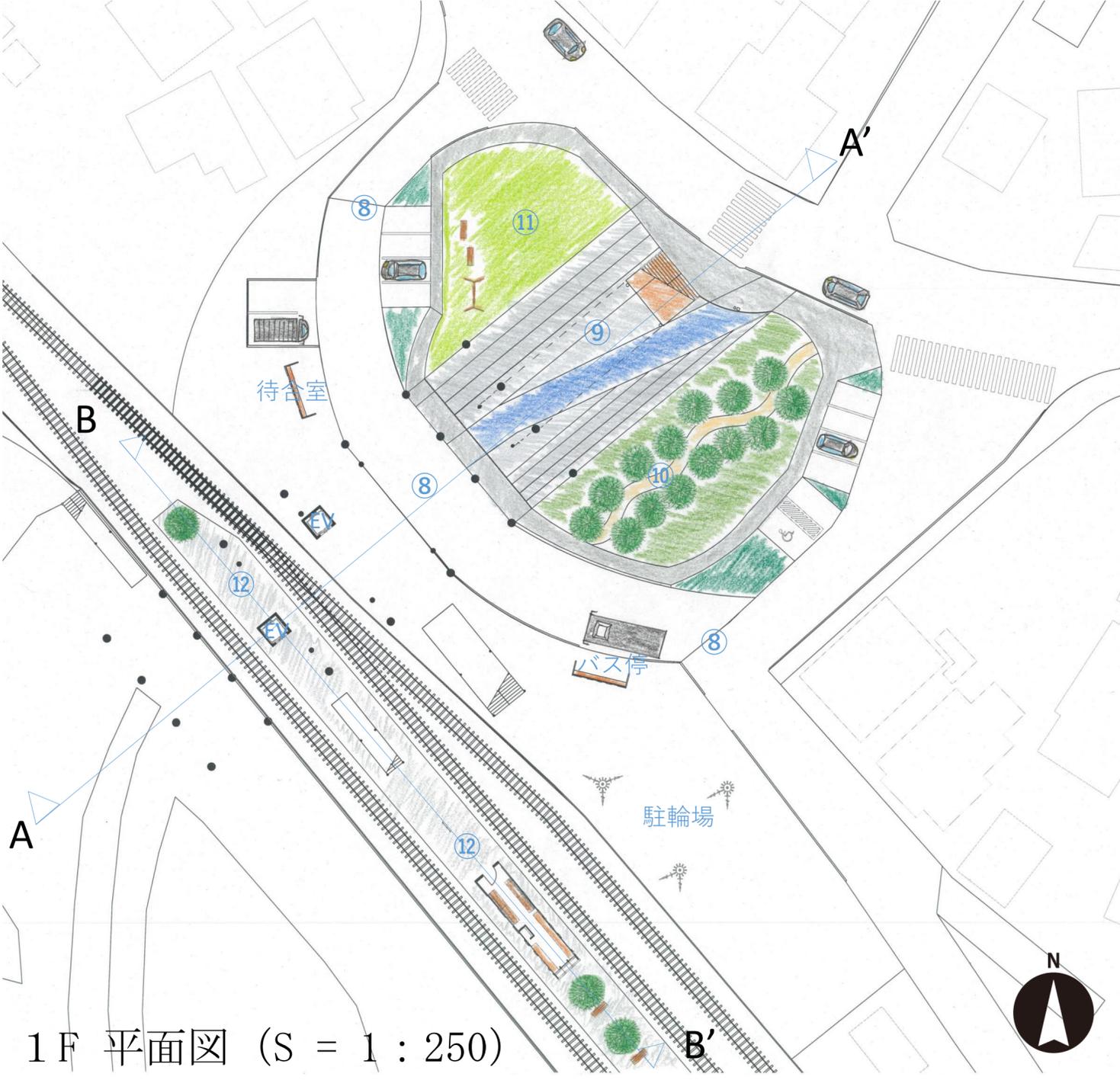


⑥ 吹き抜け 開放感を来訪客に与える。災害時には換気を促進する。



⑦ 駐在所 近隣小学校廃校による学生の鉄道利用増加を予測し駅に複合化。駅周辺を監視する。



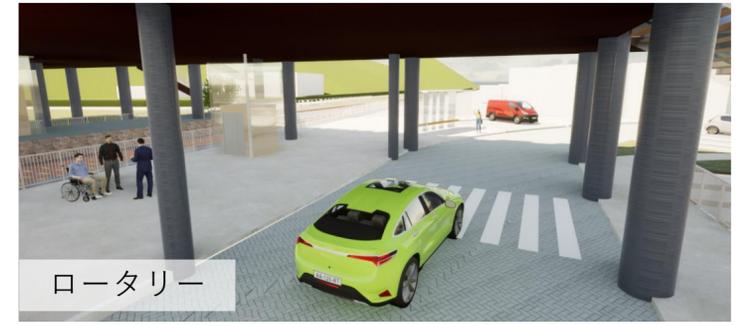


⑧ ロータリー

ロータリを新設し、内部に駐車場を設ける。バス停、一般車待合室を駅舎と共通デザインにて設置。



バス停



ロータリー

⑨ 親水公園

ウッドデッキにより、雨宿りや避暑が出来る。



親水広場



広場から駅舎を眺める

⑩ 梨の小径

特産の“水郷梨”を植樹し、花と実が楽しめる。



梨を感じる

⑪ 芝生広場

子供たちの遊び場。晴天時には青空市が開催。



芝生広場

⑫ ホーム

待合室には展示スペース。列車の車窓へ地元の魅力を発信する。



待合室



ホームから駅舎を眺める

1F 平面図 (S = 1 : 250)

* 農産物直売所

特定の場所は定めず、季節・曜日・天候等に合わせてホーム上、2階通路、広場イベントスペースで販売を行う。



雨天時の様子



休日の様子



晴天時の様子